

3・1ビキニ記念のつどい2023

# 核・気候・災害の記憶を繋ぐ

2/25(土)

14:00~ @夢の島マリーナ

予約不要  
参加費500円

ボランティアガイドによる  
見学会も開催!!



第五福竜丸が水爆実験に遭遇した3月1日を記念して毎年開催している3・1ビキニ記念のつどい。今年は核・災害・気候などさまざまな理由で故郷を追われ生活を奪われてきた人びとについて考えます。

(写真 ラグーンで戯れるマーシャルの子どもたち。豊崎博光,2006年)

プログラム 14:00~16:30予定

映画上映 「故郷を追われて」監督・坂田雅子, 2021年, 30分

講演 豊崎博光「故郷、文化、伝統、コミュニティの喪失」

トーク 「核・気候・災害の記憶を繋ぐ」

瀬尾夏美 (アーティスト)

一谷智子 (西南学院大学外国語学部教授)

蓮沼佑助 (ファシリテーター・第五福竜丸展示館学芸員)



会場ではマスク着用等新型コロナウイルス感染症対策にご協力ください。

イベントの終了は第五福竜丸展示館の閉館時間後となります。見学を希望される方はご注意ください。

主催：公益財団法人第五福竜丸平和協会

# 映画

## 故郷を追われて

### —核被害と温暖化のはざまを生きるマーシャルの人びと—

太平洋の真珠の首飾りと言われる中部太平洋のマーシャル諸島共和国。1946年から58年にかけて米国が67回もの原水爆実験を繰り返し、風下の島々では多くの住民が被ばく。故郷を追われた歴史を持ちます。現在では、海面上昇や降雨量の減少など気候危機によって島での暮らしが脅かされています。『花はどこへ行った』『わたしの、終わらない旅』の坂田雅子監督がマーシャル諸島の今を見つめたドキュメンタリー。(監督・坂田雅子,2021年,30分,劇場未公開)

## 豊崎博光 Hiromitsu TOYOSAKI

フォト・ジャーナリスト、第五福竜丸平和協会専門委員。1948年横浜生まれ。1978年から日本や世界の核被害地を渡り歩き、被害者取材。『アトミック・エイジ』（築地書館,1995年）で「第1回平和・協同ジャーナリスト基金賞」、『マーシャル諸島一核の世紀』（日本図書センター,2005年）で「第48回日本ジャーナリスト会議（JCJ）賞」を受賞。近著に『写真と証言で伝える世界のヒバクシャ』（すいれん舎, 2019年, 全3巻）。

## 瀬尾夏美 Natsumi SEO

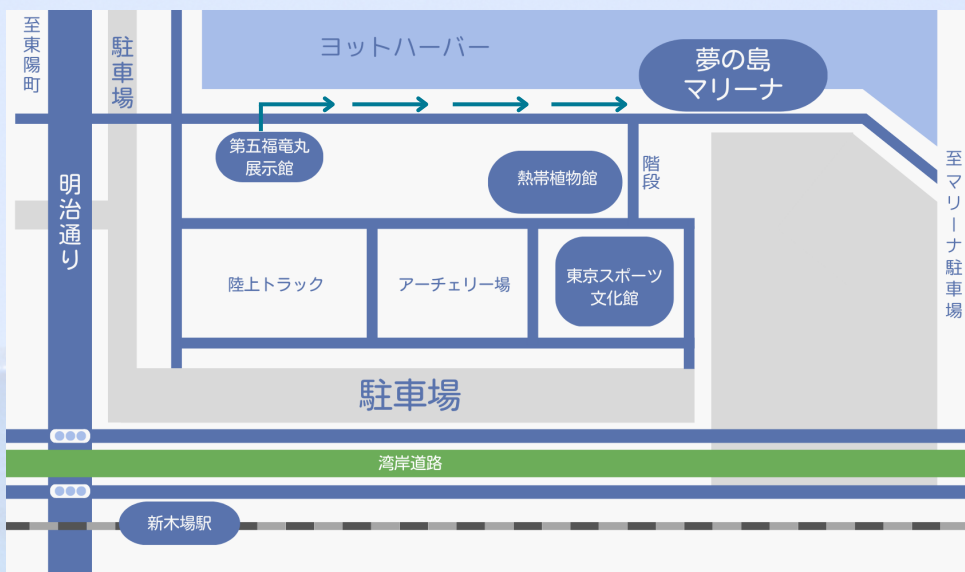
1988年東京都生まれ。土地の人びとのことばと風景の記録を考えながら、絵や文章をつくっている。2012年より3年間、岩手県陸前高田市に拠点を移し、対話の場づくりや作品制作を行う。2015年、地域社会と協働した記録をおこなう一般社団法人NOOKを設立。著書に『あわいゆくころ 陸前高田、震災後を生きる』（晶文社,2019年）、映画作品に小森はるか+瀬尾夏美「二重のまち/交代地のうたを編む」（2019年）、参加展覧会に「ヨコハマトリエンナーレ2017」など。

## 一谷智子 Tomoko ICHITANI

西南学院大学外国語学部教授。専門分野は英語圏文学（特にオーストラリア）、核文学、環境文学。共著に『トランスパシフィック・エコクリティシズム 物語る海、響き合う言葉』（彩流社, 2019年）、『エコクリティシズムの波を超えて』（音羽書房鶴見書店,2017年）、『帝国と文化—シェイクスピアからアントニオ・ネグリまで』（春風社, 2016年）など。2023年3月にはマーシャル諸島の詩人キャシー・ジェットニル=キジナーの詩集の翻訳『開かれたかご マーシャル諸島の浜辺から』（みすず書房）を出版。

## 会場までのアクセス 会場：夢の島マリーナ 2階会議室

- 【徒歩】第五福竜丸展示館前から、ヨットハーバー沿いの遊歩道を進む
- 【お車】国道357号線、新木場インター先、夢の島マリーナ入り口を左折



## 第五福竜丸展示館 見学会

つどい当日、下記の時間にボランティアガイドによる展示館見学会を開催します。（各回20分）

1回 11:30  
2回 12:30

第五福竜丸展示館内、  
第五福竜丸船尾付近に  
お集まりください。